

令和6年度 シラバス

学年	教科	教材
3年	社会科	<歴史的分野> ・教科書「新しい社会 歴史」(東京書籍) ・副教材「歴史の学習2・3」 浜島書店 「3年間の総整理問題集」 正進社 <公民的分野> ・教科書「新しい社会 公民」(東京書籍)

1. 学習の目標

- ・文化の起りから発展に向けて、どのような人の営みが行われていったのか考察し、歴史の編成を理解できるようになる。
- ・人々の営みの中で、地域での特色や国家の形成、政治体系の完成について歴史的な流れを理解する力を身につける。
- ・個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務の関係を広い視野から正しく認識させ、民主主義に関する理解を深めるとともに、国民主権を担う公民として必要な基礎的教養を培う。
- ・現代の社会的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に収集、選択して多面的・多角的に考察し、事実を正確にとらえ、公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる。

2. 学習の方法

- ・教科書の内容を中心に進めながら、現在の社会的な事象なども絡めて学習します。積極的に発言をして取り組むことが大切です。
- ・グループ学習など協力して課題に取り組む授業も取り入れます。積極的に協力し合う力を高めましょう。
- ・課題も多く、地道な作業も多いと思いますが、社会的な事象に興味や関心をもつことが学習をスムーズに進めるポイントです。
- ・授業で配るプリント類は、必ず整理してノートに貼りましょう。
- ・プリント、ワークは、基本的に家庭学習で役立てましょう。
- ・日々の復習が大切です。定期テスト1週間前には、提出物を完成させておきましょう。授業での積極に取り組む姿勢と計画的に家庭学習に取り組むことを期待しています。

3. 評価の観点と評価方法

評価の観点	評価の方法
知識・技能	定期テスト・課題・小テスト(主として知識・資料活用を問うもの) など
思考・判断・表現	定期テスト・課題・小テスト(主として思考力・判断力を問うもの) など
主体的に学習に取り組む態度	提出物(ノート等)・学習に取り組む意欲・学習態度 など

4. 年間指導計画

月	単元・題材名	主な学習内容	学習のねらい
4	〈歴史的分野〉 第6章 二度の世界大戦と日本	1節 第一次世界大戦と日本	ヨーロッパ諸国間の対立や民族問題を背景として第一次世界大戦が起こったことを理解するとともに、大戦がその後の国際情勢に大きな影響を及ぼしたことを理解する。
5		2節 大正デモクラシーの時代	第一次世界大戦がその後の日本に大きな影響を及ぼしたことを理解する。
6		3節 世界恐慌と日本の中国侵略	世界恐慌の発生と日本への影響および世界の主要国の対応について理解する。
		4節 第二次世界大戦と日本	第二次世界大戦の始まりから終戦への流れを理解するとともに、日本がアジア諸国を中心とする多くの国々に多大な損害を与えたことを理解する。
	第7章 現在の日本と私たち	1節 戦後日本の出発	戦後復興期の日本の様子について考えるとともに、国際連合の発足、米ソ両陣営の対立による冷戦、平和共存の動きなど、日本の動きと関連させながら理解する。

		2節 冷戦と日本の発展	冷戦の影響を受けながら外交や国内の政治が展開されたことや日本の産業・経済や科学技術の著しい発展をしたことを理解する。
		3節 新たな時代の日本と世界	世界規模での米ソ両陣営の対立が終わったことに気づき、冷戦終結後の国際協調の平和外交の推進や開発途上国への援助などに着目する。
7	〈公民的分野〉 第1章 現代社会と私たち	1節 現代社会の特色と私たち	現代社会の特色として少子高齢化、グローバル化、情報化などがみられることを理解し、それらが日本の政治、経済、国際関係に影響を与えていることに気づく。
		2節 私たちの生活と文化	現代社会における文化の意義や影響を理解するとともに、日本の伝統と文化に関心を持ち、文化の継承と創造の意義に気づく。
9		3節 現代社会の見方や考え方	現代社会をとらえる見方や考え方の基礎として、対立と合意、効率と公正などについて理解する。
	第2章 個人の尊重と日本国憲法	1節 人権と日本国憲法	議会制民主主義の意義、および日本の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について考えるとともに、日本国憲法の国民主権、平和主義、基本的人権の尊重についての理解を深める。
		2節 人権と共生社会	日本国憲法で基本的人権が保障されている意義について考え、人々の多様な考えを相互に認め合う共生社会についての理解を深める。
		3節 これからの人権保障	新しい人権が認められてきていることについての理解を深める。
10	第3章 現在の民主政治と社会	1節 現代の民主政治	民主政治の推進と公正な世論の形成や国民の政治参加について理解するとともに、選挙の意義についても考える。
		2節 国の政治の仕組み	国会、内閣、裁判所を中心とする日本の政治のしくみについて理解を深める。
11		3節 地方自治と私たち	地方自治の基本的な考え方、地方公共団体の政治のしくみについて理解するとともに、住民の権利や義務についての考えを深める。
	第4章 私たちの暮らしと経済	1節 消費生活と市場経済	身近な消費生活を中心に経済活動の意義を理解するとともに、消費者の保護など消費者をめぐる問題について、政府の取り組みなどを理解する。
		2節 生産と労働	生産のしくみやはたらきについて理解し、社会における企業の役割と責任について考える。
12		3節 市場経済の仕組みと金融	価格のはたらきに着目し、市場経済の基本的な考え方や金融について理解する。
1		4節 財政と国民の福祉	社会資本の整備や社会保障の充実など、国や地方公共団体が果たしている役割について理解するとともに、財政の役割について考える。
		5節 これからの経済と社会	公害の防止など環境の保全に向けた取り組みについて理解する。

	<p>第5章 地球社会と私たち</p>	<p>1節 国際社会の仕組み</p>	<p>国家間の相互の主権の尊重と協力、各国民の相互理解と協力および国際連合が果たしている役割について理解するとともに、国際社会における日本の役割について考える。</p>
2		<p>2節 さまざまな国際問題</p>	<p>地球環境、資源・エネルギー、貧困などの課題の解決のために経済的、技術的な協力などが大切であることを理解する。</p>
		<p>3節 これからの地球社会と日本</p>	<p>持続可能な地球社会を創るために何ができるかを考える。</p>
3	<p>終章 よりよい社会をめざして</p>		<p>私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題を探求し、自分の考えをまとめる。</p>